

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400290		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームはこだて乃木(1階 花*花)		
所在地	北海道函館市乃木町4番32号		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0191400290-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者様・職員が毎日笑顔で過ごせるよう努めています。 入居者様が望む生活に少しでも近づける様、日々の会話の中かヒントを得られるような声掛けに努めています。またご家族様との会話の中でも、以前の様子やご家族様の思いを聞き取れるように努めています。 入居者様・ご家族様と信頼関係が築ける様、寄り添う支援を心掛け、話しやすい環境作りに努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ふれあいの里グループホームはこだて乃木」は、函館の中心地(本町)より湯の川温泉寄り(車で5分程)の静かな住宅街に位置している。建物は3階建てで1階と2階がグループホーム、3階が建主の住居となっている2ユニットの事業所で、建物の隣には児童公園があり日中は子供たちの歓声を聞くことが出来る。運営母体は札幌にあり全道各地で各種介護施設を展開している。町内会との交流も多く、今年度は中止となったが町内のお祭りや、敬老会、餅つき大会に参加しており、利用者が食べやすいように餅を小さくしてくれるなどの配慮があり、町内会長や民生委員は運営推進会議に必ず参加してくれている。感染症対策のため外出が難しい中、職員は色々な工夫をし玄関前で外気浴を兼ねてのヨーヨー釣りやシャボン玉、室内での各種ゲームを企画し楽しく過ごせるよう利用者に寄り添ったケアを行っている。ホーム長の丁寧なケアという基本姿勢が職員にも共有されている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に学び・共に歩み・日々寄り添う」を理念に掲げ、職員全員に周知し、日々支援していける様、取り組んでいます。理念はホーム内にも掲示しています。	理念は事業所内各所に掲示し、特に玄関は綺麗にレイアウトされた理念が掲げられ出入りの度に意識付けされている。経験年数の長い職員が多く、意識付けされた理念に添ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、地域交流ができておりません。	町内会との交流も多く、例年は夏祭りや敬老会・餅つき大会に参加しているが今年度は全て中止となっている。近所の方が毎年雑巾を寄付してくれたり、町内の薬局では薬を届けてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防の為、実施できておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、実施できておりませんが、2か月に1度、運営推進会議で使用する資料を作成し各関係者へ郵送しております。	今年度は全て書面開催で6回行い、行事予定・入居状況・職員状況を伝えている。毎月の行事の様子を詳細に伝え、中には利用者が発した会話中の言葉も書き加えるなど家族からは大変好評を得ている。各関係者にも郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、市町村担当者と連絡を取り、アドバイスを頂く等、良好な関係を築いていけるよう努めています。	感染症対策や新規受け入れへのアドバイスなどを受けたり、ケースワーカーが来所しての面談、更新申請の書類を市へ提出するなど双方向での協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人作成の「身体拘束マニュアル」があり、職員全員がいつでも閲覧出来るように事務所に設置しています。また、定期的に勉強会を行う事で正しい知識を身に付けれる様努めています。	不適切ケアの防止委員会を3か月に一度開いている。不適切ケアにつながらないかを職員と面談し話し合い、注意喚起を含めて職員会議で再度話し合い議事録を回覧している。身体拘束マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度 不適切ケア防止委員会、半年に1度不適切ケアに関する研修会を行い理解を深める様に努めています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様がいますが、職員全員が研修会等、学ぶ場に参加出来ないのが現状です。市の制度等を活用し、順次把握出来る様に努めていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容・契約書の説明につきましては、特に時間をかけて行い、ご本人様、ご家族様に納得して頂けるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、確認を行っています。現在苦情等はありませんが、苦情等があった場合は、申し送りやスタッフ会議の中で職員全員が共有出来る様にしたいです。	ホームページに家族の希望により事業所内の様子を写真で配信している。毎月書面にて、利用者の様子やケアプラン、服薬状況を知らせ、4か月に1度はホームだより「花・花」で写真で様子を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の会話の中で気付いた事や思っている事を話し合える環境作りをしています。定期的に個人面談を実施しています。	日々のケアの中での話や、困っている時の相談など管理者は常に話し易い雰囲気づくりを心がけている。毎月2回希望休暇を取り、年に2回は個人面談を行い意見や希望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務態度や努力を評価し、法人での資格取得制度を利用し、スキルアップ出来る様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での内部研修を定期的に行い、また、外部研修があった際は、参加出来る様勤務調整を行っていますが、外部研修への参加はコロナウイルス感染予防の為、参加できていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染の為、同業者と交流する場へ参加できていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に、ご希望や不安なことや思いを聞き取るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、困っている事などをお聞きし、その場で話せない内容については、後から聞けるような環境を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話をお聞きした上で、必要とされるサービスを判断しています。必要に応じて、他のサービス利用の検討も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に過ごせる時間を少しでも作るように努めています。日常会話も多くすることで信頼関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お便りを送らせて頂く事で、簡単ではありますがホームでの様子を伝え、必要に応じて電話連絡し様子を伝えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦にて、現在出来ていませんが、お手紙等希望があれば対応しています。	今年度は感染症対策のため、最小限の移動という事で外出や知人の来訪も難しく、電話でのやり取りで関係を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、関係が持てるように努めています。必要に応じて職員が間に入る様にしています。食事の席なども配慮しています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関わりを持つケースは今までないのですが、必要とされる時には対応したいと思えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、意向の把握に努めることが出来るよう支援しています。確認が困難な方に対しては、表情や発語等を頼りに思いをくみ取れるよう努めています。	利用者の希望で誕生日にはおはぎを積み上げてケーキ代わりに大変喜ばれている。食べ物の希望が多く、希望に添えるよう配慮している。困難な場合は家族からのアセスメントを利用、また表情から汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時、ご家族様からの生活史等の聞き取りをはじめ、記録に残し情報共有しています。また、日々のコミュニケーションの中で、どのような生活をされてきたのか情報を聞き出せるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で情報を共有し、一人ひとりの生活スタイルを把握出来る様努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様からの要望や意見を聞き出せるよう努め、日々の会話や定期的にモニタリング、カンファレンスを開催し、計画作成しています。	フェイスシートを利用して介護計画を作成している。圧迫骨折した利用者も寝たきりにならないように介護計画を立て自分で歩けるようになっている。持てる力を活かせるように簡単な労働を介護計画に入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に入力し、変化が見られた際は申し送りする事で情報共有。介護計画の見直しに活かすよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズに応じてその都度、柔軟な対応が出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防にて、地域資源の協働が図れていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が希望する医療機関へ受診しています。また、医療機関と連携を結んでおり、月2回医師の往診にて相談、指導、助言を頂いております。必要に応じて受診しています。	感染症のため協力医療機関より月2回の健康管理の助言があり、他の協力医療機関から月に1度の往診がある。週に1度看護師とはファックスで相談し、内容により来所してくれる。緊急時24時間対応となっている。かかりつけ医は家族が受診同行している。	

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携先の看護師へ毎週月曜日に健康相談・報告等のFAXを送り、返答を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ご家族様へ連絡し、病院へは介護添書を作成し、情報提供しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については、入居の契約の際にお話をしています。また、その時が訪れた際は、再度、ご家族様と話し合い、入居者様にとって最良の方法を考え支援しています。	契約時に「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意書をもらい、終末期に向けては再度話し合いをしている。看取り介護に関するマニュアルも作成し、担当者制ではあるがチームで取り組み看取りの経験も多くある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内に、事故発生時、急変時の為のマニュアルを掲示しております。また、定期的に緊急時の対応について勉強会を行う事で、知識を身に付けれる様に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害訓練を年2回実施していますが、コロナウイルス感染予防にて、避難訓練は外部の立会いなく自主訓練となっています。	例年は消防署立ち会いの下に行っているが、今年度は規模を縮小して2回行っている。日中想定・夜間想定も含めて避難経路の確認と連絡網の確認も行っている。備蓄も3日分用意している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉使いに注意し、プライバシーを損ねないように努めています。	排泄時の声がけは他の利用者に聞こえないように配慮し、着替えの時は居室の扉を必ず閉めるようにするなど一人ひとりの尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の意思で物事を決定できるよう、声掛けや見守りを行っています。ご自分で決定が困難な方には、希望を聞き出せる様な質問をし、表情等を読み取る様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その人らしく過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、爪切りやうぶ毛剃り、常に洋服の乱れ等がないか確認しています。理美容は、コロナウイルス感染予防の為、定期的実施できていません。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の味見をして頂いたり、食後の食器洗い・お米とぎ等、声掛けにて手伝って頂いております。	感染症対策のため外食が難しく、利用者の好みを活かしたメニュー作りをしている。「マック」「ラッピのオムライス」「お寿司」などの要望は行事食として買い出しや出前を取り、味見や食器洗いも利用者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録を行い、職員全員が把握出来る様になっています。食事・水分摂取量が少ない時は嗜好品を提供したり、水分に関してはこまめに摂取して頂く様になっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っています。その際、口腔内の状態を確認するようにしています。介助の必要な方は、口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレにて排泄が出来る様に定期的に誘導しています。状況に応じて、2名介助にて行う事もあります。	日中・夜間とも自立している利用者が多く、布の下着を利用している。紙パンツ利用者は排泄パターンを利用してトイレに誘導し自立に向け支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の際に、排便の有無の確認を行っています。また、便秘気味の方には主治医の指示に従って、下剤服用や乳製品を摂って頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回のペースで入浴出来る様になっています。一人ひとりに合わせ支援を行っています。	週2回を基本として入浴している。拒む利用者はいなく、入浴剤を利用し色・香りを変えて入浴が楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った生活リズムで休息や睡眠をして頂く様になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や目的、副作用等把握するように努めています。服薬の際は職員2名にて確認し服用。配薬表に記入する事で各自責任感を持つようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事や誕生日会を行い入居者様の意見や好みを取り入れ、目先の変わった物を提供しています。また、毎日レクリエーションを行い、楽しく過ごせる時間を作っています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防にて、外出支援は出来ていません。	感染症対策のため外出が難しく、職員が玄関前での行事を企画し、日光浴を兼ねたシャボン玉やヨーヨー釣りを楽しんでいる。午前中はラジオ体操を行い、午後からは色々なゲームをしたり、時代劇を観たりと室内でも楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて立替購入しております。入居料請求時に一緒に頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、職員が付き添い、掛けて頂いております。手紙を読むのが困難な方には、代読を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同で使用するトイレや浴室にはわかりやすく表示をしています。各居室に表札つけています。リビングや玄関、食堂には、季節に合わせて飾り付けを行っています。温度や湿度管理に注意し、乾燥時期には加湿器を使用し、快適に過ごせる様に努めています。	居間は季節感が感じられるように、利用者の手作り作品と共に飾りつけしている。各所に置かれたソファや隣り合った和室で思い思いに過ごし、今年は空気清浄機を兼ねた加湿器も用意し快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士が自由に過ごせる環境作りに努め、思い思いの時間を過ごせる様努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂く様、入居前の面談で伝え持ち来んで頂く様にしています。また、入居者様・ご家族様の希望を取り入れたレイアウトにしています。	馴染みの家具や遺影・仏壇・家族写真など思い出の物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。趣味である編み物をしている利用者もいて思い思いに暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	必要箇所に手すりを設置しています。また、障害になるような物は置かない様にし、安心、安全に生活を送れるよう努めています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400290		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームはこだて乃木(2階 あおぞら)		
所在地	北海道函館市乃木町4番32号		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400290-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人のペースを尊重し、日々寄り添いながら、穏やかに過ごして頂けるよう職員一同取り組んでいます。
お買い物をしたい、外出がしたいなどの、個別的なご要望にも柔軟に対応していましたが、この1年はコロナ感染予防対策の 為外出制限もあり支援が難しい状況であります。
例年では地域との交流も大切にし、夏祭りや敬老会、餅つき会、新年会などの町内会の行事やゴミ拾いに参加などし、地域の方々に理解して頂けるよう努めておりましたが、この面でも制限の為交流できず過ごす事となっております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に学び・共に歩み・日々寄り添う」を理念に掲げ、職員全員に周知し、日々支援していける様、取り組んでいます。理念はホーム内にも掲示しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、地域交流ができておりません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防の為、実施できておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、実施できておりませんが、2か月に1度、運営推進会議で使用する資料を作成し各関係者へ郵送しております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、市町村担当者と連絡を取り、アドバイスを頂く等、良好な関係を築いていけるよう努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人作成の「身体拘束マニュアル」があり、職員全員がいつでも閲覧出来るように事務所に設置しています。また、定期的に勉強会を行う事で正しい知識を身に付けれる様努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度 不適切ケア防止委員会、半年に1度 不適切ケアに関する研修会を行い理解を深める様に努めています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様が増えていますが、職員全員が研修会等、学ぶ場に参加出来ていないのが現状です。市の制度等を活用し、順次把握出来る様に努めていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容・契約書の説明につきましては、特に時間をかけて行い、ご本人様、ご家族様に納得して頂けるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、確認を行っています。苦情等があった場合は、申し送りやスタッフ会議の中で職員全員が共有出来る様、話し合っています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の会話の中で気付いた事や思っている事を話し合える環境作りをしています。定期的に個人面談を実施しています。また、職員専用意見箱も設置し、確認しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務態度や努力を評価し、法人での資格取得制度を利用し、スキルアップ出来る様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での内部研修を定期的開催、また、外部研修があった際は、参加出来る様勤務調整を行っていますが、外部研修への参加はコロナウイルス感染予防の為、参加できていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染の為、同業者と交流する場へ参加できていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様より、要望や不安な事がないか伺い、望む生活が出来る様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様来訪時等、ご要望や困っている事がないか伺う様に努めています。また、話をする事で少しでも信頼関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時等、生活環境などを伺い、どのような支援が必要かと考え、対応出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様との余暇活動を行ったり、共に過ごす時間を少しでも多く作り、関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご本人様の様子を記載したお便りを送らせて頂いています。ご家族様へはいつでも話せる関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦にて、現在出来ていませんが、お手紙等希望があれば対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の余暇の中で、入居者様同士、関係が持てる様支援しています。一緒に楽しめない方には無理強いせず、寄り添い、支援します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、サービス終了後、関わりを必要とされるケースはありませんが、必要とされる際には、支援を行い、情報収集に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で、ご本人様の意見、意向を聞き、職員全員で共有出来るようにしています。また、困難な場合は、表情や仕草にて思いを把握出来るように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションの中で、どのような生活をされてきたのか情報を聞き出せるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌やアセスメントシート等、職員同士で情報を共有し、一人ひとりの生活スタイルを把握出来る様努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様からの意見を聞き出せるよう努めています。定期的にモニタリング、カンファレンスを行い、計画作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し、特変があった際は、記録文字の色を変えて記載するように行い、記録を基に介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われず、その時々状況に応じて柔軟な対応が出来るよう意見交換を行い、サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防にて、地域資源の協働が図れていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が希望する医療機関へ受診しています。また、医療機関と連携を結んでおり、月2回の往診にて、指導、助言を頂いております。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師が来訪され、健康管理指導を受けています。状態に変化が見られた際は、連絡し、24時間体制で対応して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ご家族様へ連絡し、病院へは介護添書を作成し、情報提供しています。入院中は、お見舞いへ行き、状況を確認するよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については、入居の契約の際にお話をしています。また、その時が訪れた際は、再度、ご家族様と話し合い、入居者様にとって最良の方法を考え支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内に、事故発生時、急変時の為のマニュアルを掲示しております。また、定期的に緊急対応の勉強会を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害訓練を年2回実施していますが、コロナウイルス感染予防にて、避難訓練は外部の立会いなく自主訓練となっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の人格を尊重し、言葉使い、言葉掛けに注意し、自己決定をしやすい声掛けを心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の意思で物事を決定できるよう、声掛けや見守りを行っています。ご自分で決定が困難な方には、表情を読み取る様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿って、その人らしく過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、爪切りやうぶ毛剃り、洋服の乱れ等がないか確認しています。訪問理美容はコロナウイルス感染予防対策の為、定期的に訪問できていません。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら料理の味見やお盆拭き、テーブル拭き等、出来る方をお願いし、手伝って頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録を行い、職員全員が把握出来る様にしています。食事・水分摂取量が少ない時は申し送るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っています。その際、口腔内の状態を確認しています。介助の必要な方は、口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行い、トイレにて排泄が出来る様に誘導しています。失敗をされた時は、自尊心を傷つけない様な声掛けをしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の際に、排便の有無の確認を行っています。また、便秘気味の方には主治医の指示に従って、下剤服用や乳製品を摂って頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴が出来る様に心掛けています。一人ひとりに合わせた入浴方法で、支援を行い、その日の体調に合わせ無理せず入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった時間ではなく、一人ひとりに合った生活リズムで休息をして頂く様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や目的、副作用等把握するように努めています。服薬の際は職員2名にて確認を行い、服用して頂き、配薬表に記入する事で各自責任感を持つようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 季節に応じた行事や誕生日会を行い入居者様の好みを取り入れ、目先が変わった物を提供しています。また、毎日レクリエーションを行い、楽しく過ごせる時間を作っています。	季節に応じた行事や誕生日会を行い入居者様の好みを取り入れ、目先が変わった物を提供しています。また、毎日レクリエーションを行い、楽しく過ごせる時間を作っています。		

ふれあいの里グループホームはこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防にて、外出支援は出来ていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは金銭の預かりをしていません。必要に応じ、立替にて物品購入を行っており、入居料請求時に一緒に頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、職員が付き添い、掛けて頂いております。手紙を読むのが困難な方には、代読を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同で使用するトイレや浴室にはわかりやすく表示をしています。各居室には各自表札をかけています。また、リビングや玄関、食堂には、季節に合わせた飾り付けを行っています。温度や湿度管理に注意し、乾燥時は加湿器を使用し、快適に過ごせる様に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングの席は、気の合う入居者様同士が自由に過ごせる様工夫し、思い思いの時間を過ごせる様努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた物を持ち込んで頂く様、入居前の面談にてお話しをさせて頂いております。また、入居者様・ご家族様の希望を取り入れたレイアウトにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、お風呂場、玄関には、手すりを設置しています。また、障害になるような物は置かない様にし、安心、安全に生活を送れるよう努めています。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		次のステップに向けて期待したい内容はありませんでしたが、プライバシーの部分で、共有トイレの扉を開けた時、向かえ側にある居室から便器が見えないかという話があった為確認すると、ホーム内に1ヶ所そのような状況の場所がありました。	プライバシーを損ねない対応を行う	トイレの向かえにある居室の出入り口に目隠しの為、長めの暖簾を設置する。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。